



つなかり



実りの秋 研修の秋 ～研修会報告～

10月1日から「感染警戒期」に移行し、感染防止対策を十分に行いながら、実施を予定していた社会教育関係研修会が、少しずつ開催できるようになりました。

10/17 (日) 親子で楽しもう！その7

南予管内市町等教育委員会連合会と南予教育事務所が共催で、国立大洲青少年交流の家を会場に「親子で楽しもう！その7」を開催しました。



当初は夏休み期間中である8月21日(土)に実施予定でしたが、開催時期を延期し、秋の開催となりました。

午前は「火おこし体験に挑戦！」と題し、サバ飯(サバイバルご飯)づくりに取り組みました。講師に松野町でBBQ侍として活動されておられる肉本龍馬氏を迎え、ファイヤースタータ(メタルマッチ)を使った火おこし体験やアルミ缶を利用した炊飯等を実施しました。



午後は場所を肱川に移し、大洲市カヌー協会のみなさんの指導のもと、カヌー体験に挑戦しました。カヌーに乗るのがはじめての小学生や20年ぶりと懐かしむ保護者もいましたが、参加者はすぐにカヌーを自在に操れるようになり、水面をスイスイと漕ぎ進めていました。

心地よい秋の風を肌で感じながら、親子で体験活動を存分に楽しめた週末の活動となりました。

10/26 (火) 南予地区人権・同和教育研究協議会

今年度の南予地区人権・同和教育研究協議会は松野町、鬼北町内の6会場で行われました。

感染防止対策のため、学校教育部会(小・中学校)では授業公開を取りやめ、授業の様子を撮影した静止画や板書記録を使用して授業報告をする代替措置を取り、どの部会でも参加人数も制限をしておきました。



社会教育部会では、地域の各団体、公民館、隣保館、行政それぞれの立場から実践報告がありました。その後、班別協議や全体協議を行いました。班別協議では、参加者一人一人が実践や課題について発表し、課題の解決に向けての意見交換を行いました。全体協議では、各班からの意見を発表し、参加者全員で協議内容を共有することができました。「これからの実践につながる実りある時間となった」など、多くの感想がありました。

様々な制約がありましたが、参集し、実践を持ち寄って学び合うことで、人権・同和教育進めていく仲間の存在とその責任を強く感じた研修会でした。